

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第18週 (5/2-5/8) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		18週	17週	16週	15週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	5/2-5/8	4/25-5/1	4/18-4/24	4/11-4/17	4/25-5/1
			18週	17週	16週	15週	17週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	0 0.00	2 0.11	1 0.06	6 0.04
	咽頭結膜熱		5 0.28	8 0.44	8 0.44	2 0.11	55 0.41
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		36 2.00	38 2.11	58 3.22	57 3.17	370 2.74
	感染性胃腸炎		104 5.78	98 5.44	108 6.00	142 7.89	628 4.65
	水痘		5 0.28	8 0.44	4 0.22	11 0.61	54 0.40
	手足口病		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00	3 0.02
	伝染性紅斑		8 0.44	4 0.22	7 0.39	7 0.39	42 0.31
	突発性発しん		14 0.78	14 0.78	15 0.83	16 0.89	71 0.53
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	1 0.06	0 0.00	4 0.03
	流行性耳下腺炎		6 0.33	8 0.44	14 0.78	14 0.78	131 0.97
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		13 0.48	39 1.39	95 3.39	102 3.64	328 1.53
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	○	4 0.80	2 0.40	1 0.20	2 0.40	22 0.63
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(2件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	結核	女性	30歳代	病原体等の検出

・第18週は、結核2件(73)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

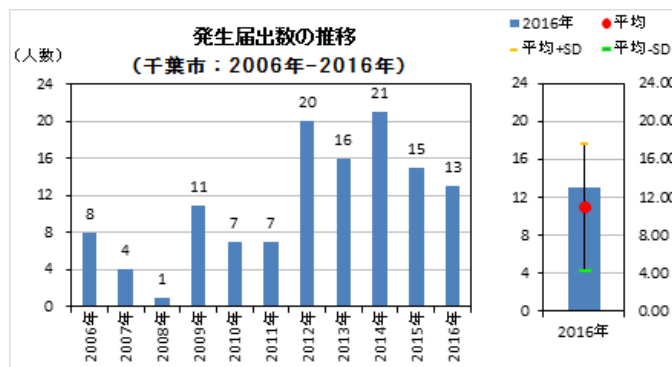
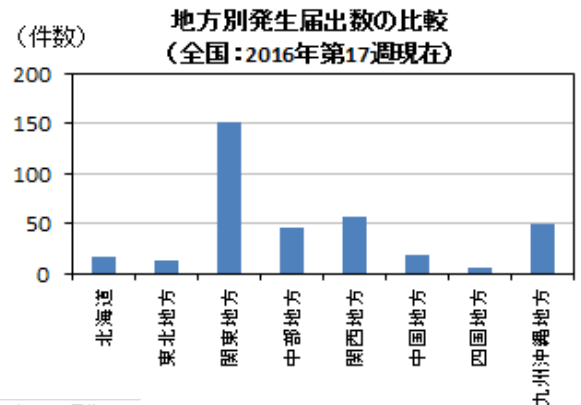
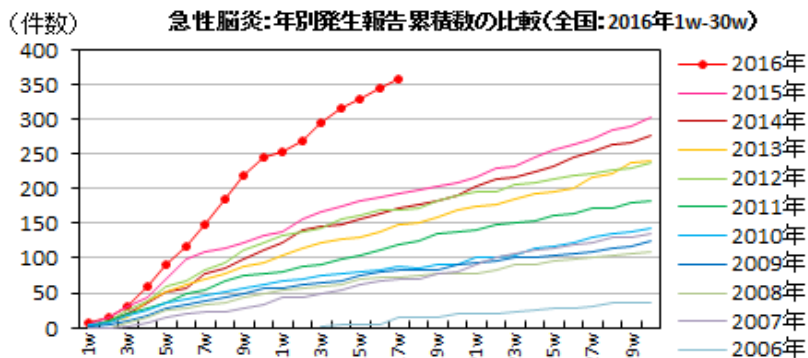
定点当たり報告数 第18週のコメント

<流行性角結膜炎> 前週から増加し0.80となった。過去10年の同時期と比べると最多。

トピック

＜急性脳炎＞

全国レベルの第17週は、過去9年の同時期と比べると最多で、約2倍～約5倍となっています。都道府県別では、関東地方が大幅に多く、東京都、神奈川県、千葉県順に多く報告されています。千葉市では近年増加傾向にあり、2016年は第18週現在の累積届出数は13件で、過去10年と比較すると既に平均を上回っています。内訳として、男女別では、男性が46.2%（6名）、女性が53.6%（7名）で、年齢階級別では、0歳が15.4%（2名）、1歳から9歳までが69.2%（9名）、10歳代と40歳代が共に7.7%（1名）となっており、原因となる病原体は、インフルエンザウイルスAが15.4%（2名）、ヒトヘルペスウイルス6、RSウイルス、単純ヘルペスウイルスが共に7.7%（1名）で、不明が61.5%（8名）となっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルのは第12週から連続して増加しており、第17週は過去9年の同時期と比べると平均を大幅に上回り多くなっています。都道府県別では、宮崎県、神奈川県及び熊本県、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干少なめとなっています。千葉市の第18週は前週より増加し0.80となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、若葉区(4.0/定点)の1歳、7歳、9歳及び50歳代で発生報告がありました。2015年第1週から第18週までの累積報告数(n=54)によると、性別では男性が40.7%（22名）、女性が59.3%（32名）で、年齢階級別では30歳代(25.9%：14名)、50歳代(16.7%：9名)、60歳代(11.1%：6名)の順に多くなっています。

